○　こうした個人と社会の目指すべき姿の実現に向けて，第２期計画で掲げた「自立」「協働」「創造」の三つの方向性を実現するための生涯学習社会の構築を目指すという理念を引き続き継承し，教育改革の取組を力強く進めていく必要がある。

○　さらに，今後の社会においては，長寿化に伴う「人生 100 年時代」の到来への対応と，超スマート社会（Society 5.0）の実現が特に重要なテーマとなる。このことを踏まえて，政府においても，「人生 100 年時代構想会議」を開催し，高齢者から若者まで，全ての国民に活躍の場があり，全ての人が元気に活躍し続けられる社会，安心して暮らすことのできる社会を作るための重要な鍵となる「人づくり革命」の取組を進めている。

○　加えて，AI などの新しいイノベーションの登場は，超スマート社会（Society 5.0）の全く新しい価値を創出し，「革命的」に生産性を押し上げる大きな可能性を秘めるものであり，政府においては「生産性革命」を世界に先駆けて実現することを目指した取組を進めている。教育政策として，これらにどう関わり，貢献していくかが今正に問われている。

（人生 100 年時代を豊かに生きる）

○　医療体制の充実，医学の進歩，生活水準の向上等により，平均寿命は著しく伸長し，人生 100 年時代の到来が予測されている。今後，生涯に二つ，三つの仕事を持つことや，働きながら，また引退後に，ボランティア等により，地域や社会の課題解決のために活動することなどがより一般的になると考えられる。

○　こうしたライフサイクルの中では，若年期において，知識・技能，思考力・判断力・表現力等，学びに向かう力・人間性等の涵養（かんよう）といった資質・能力を身に付けることに加え，人生 100 年時代をより豊かに生きるため，生涯にわたって自ら学習し，自己の能力を高め，働くことや，地域や社会の課題解決のための活動につなげていくことの必要性が一層高まっていく。

（超スマート社会（Society 5.0）を生きる）

○　第５期科学技術基本計画（平成 28 年１月 22 日閣議決定）においては，ＩＣＴを最大限に活用し，サイバー空間とフィジカル空間（現実世界）とを融合させた取組により，社会の至るところで新たな価値が生み出され，人々に豊かさをもたらす社会を未来の姿として共有し，これを世界に先駆けて実現することが宣言された。

○　超スマート社会（Society 5.0）は，生産・流通・販売，交通，健康・医療，金融，公共サービス等の幅広い産業構造の変革，人々の働き方やライフスタイルの変化等を伴うものである。



○　こうした変化の激しい社会を生き抜いていくためには，国民一人一人が，生涯にわたって質の高い学びを重ね，それぞれの立場や分野で成長し，新たな価値を生み出し，輝き続ける力を身に付けることが不可欠となる。その際，溢れる情報の中から必要な情報を読み取り，進歩し続ける技術を使いこなすことができるようにするため，基本的な情報活用能力を身に付けることも重要な課題である。

（教育を通じた一人一人の「可能性」と「チャンス」の最大化）

○　これらを踏まえれば，全ての人が，これまで以上に質の高い能力を身に付け，さらにそれを磨きながら，未来に希望を持って生涯を生きるとともに，超スマート社会（Society 5.0）の実現を通じて我が国と世界の持続的な発展がもたらされることとなるよう，生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」の最大化を，今後の教育政策の中心課題に据えて取り組む必要がある。

○　直面する社会の大転換を，我が国が抱える諸課題に本格的に挑戦し，解決する好機と捉え，これを教育が牽引（けんいん）していくとの気概をもって国・地方公共団体における教育政策を推進していかなければならない。

（一人一人の「可能性」を最大限高めるための一貫した教育の実現）

○　AI の発展によって近い将来多くの職種がコンピューターに代替されるとの指摘がある時代だからこそ，ICT を主体的に使いこなす力だけでなく，他者と協働し，人間ならではの感性や創造性を発揮しつつ新しい価値を創造する力を育成することが一層重要になる。これからの教育は，こうした人間の「可能性」を最大化することを幼児期から高齢期までの生涯にわたる教育の一貫した理念として重視しなければならない。

○　初等中等教育においては，幼児期から高等学校教育までを通じて育成を目指す資質・能力を，①「何を理解しているか，何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」，②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」，③「どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養（かんよう））」の三つの柱で整理するとともに，こうした資質・能力を社会や世界との接点を重視しながら育成する「社会に開かれた教育課程」の実現を求めたところで